

平戸

令和8年9月30日
横浜市立平戸小学校
〒244-0803
横浜市戸塚区平戸町 542 番地
TEL 045-821-2329
FAX 045-826-2005



学校 HP・校長室だよりが更新されています。ぜひご覧ください。
(閲覧数 9/29 現在 122369 人)



『不便』から学ぶこと

校長 若色 昌孝

この夏、私は山小屋に二泊して登山を行いました。山小屋泊は子どものころに両親に連れていってもらったきり、50年以上遠ざかっていました。古いアルバムの写真以外、その時に経験した山小屋泊の記憶は残っていません。

山小屋ではゆっくりと時間が流れていて、スタッフと話す時間も楽しいひと時でした。宿泊者の中に子どもは一人もいなかったのも、スタッフの方に「子どもが泊まることもありますか？」と尋ねると、「以前は、親が連れてよく泊まりに来ていたけど、今は本当に少なくなりましたね…」と。そして続けて、「本当は子どもにこそ来てほしいんですよ。今はきれいで便利な山小屋もあるけど、ここ、不便でしょ。…でも、不便だからこそ、学べること、感じるものがたくさんあると思うのですけどね…」と語られました。『不便』…確かに。トイレは外だし、お風呂はないし、使える水は限られているし、階段は梯子だし…。



スタッフの方から聞いたお話、まさにそのとおりだなと思いました。好むと好まざるとにかかわらず、今の子どもたちは、生まれた時から、エアコンがあり、スマホ・携帯電話があり、扉の前に立てば自動で開き、蛇口の前に手を出せばこれまた自動で水（時にはお湯！）が出てくる時代です。子どもたちが、『自分にとって不便なこと⇒不幸なこと』と考えたとしても、ある意味不思議ではありません。しかし、そういう時代だからこそ、私たち大人は上手に、子どもたちが『不便』を経験する場をつくったり、子どもたちの「不便 ⇒ 不幸」と考えがちな思考を、「不便 ⇒ でも受け入れられる」、「不便 ⇒ でも何とかなるものだ」、さらに「不便 ⇒ つくり出す面白さがある！」…と考えられることへの手伝いをしたりする必要があるのかもしれない。少なくとも、子どもが感じる『不便』を、大人側が『かわいそうだ』と感じないでいることは大切なことなのかもしれません。

実は、学校には『不便』がたくさんあります。もちろん校舎の上り下りは階段、ルールも順番もある、時間の制約もあり、思い通りにならないこともたくさん…。でも、そのような中で、日々いくつも出会う不便に腹を立てず、しなやかに前向きに受け入れられる…そういう子どもたちを育てていきたいと考えています。